

## SSI学会誌編集委員会2015年度第3回委員会 議事録

日時：2015年12月12日（土）11:00-12:00

場所：東京大学情報学環会議室

出席（敬称略）

北村順生（委員長・新潟大学）、遠藤薫（副委員長・学習院大学）、櫻井成一郎（副委員長・英文誌主任・明治学院大学）、岡田勇（論文受付・査読管理担当・創価大学）、伊藤賢一（群馬大学）、岩井淳（群馬大学）、河井延晃（実践女子大学）、五藤寿樹（開智国際大学）、服部哲（ネットワーク担当・駒澤大学）、松下慶太（実践女子大学）、山本仁志（立正大学）、吉田寛（静岡大学）

skype参加：小笠原盛浩（関西大学）、吉田純（京都大学）

欠席（敬称略）

河又貴洋（副委員長・長崎県立大学）、今田寛典（広島文化学園大学）、大國充彦（札幌学院大学）、岡田安功（静岡大学）、北村智（東京経済大学）、金相美（名古屋大学）、松本早野香（大妻女子大学）、後藤玲子（茨木大学）、柴田邦臣（津田塾大学）、関谷直也（東京大学）、中森弘道（日本大学）、野田哲夫（島根大学）、森田均（長崎県立大学）、山本佳代子（電気通信大学）

### 【報告事項】

#### 1.学会誌発行状況

○第4巻1号を発行。

- ・第4巻2号は森田、松本委員が担当し2016年1月末に発行予定。

○英文誌について

- ・櫻井先生より3本の採録を審議願い→異議なし。
- ・山本先生の翻訳論文を加えて4本を再録し、2016年1月に発行予定。
- ・英文誌9号は伊藤、河又先生に編集長を依頼。1/15CFP告知→9月に発行を目標

#### 2.和文誌編集長

○前回の決定に従う。別紙1参照。

○来年までに新たな委員を補充する。→（若手を中心に）候補者を北村先生に連絡する。

#### 3.査読体制の変更

○査読者数を2名にするという提案についてはWGで引き続き検討し、次の6月に行う編集委員会で決定する予定。

#### 4.その他

○特になし

## 【審議事項】

### 1.J-Stageへの登録について

- 見積もり・候補はサンビプロダクトセンターと昭和情報プロセスの2件。（資料参照）  
→2015年12月12日の理事会に業者、登録申請について諮る

### 2.今後の特集企画について

- 第4巻3号：特集「選挙」について

- ・担当：橋元先生
- ・原稿をもらっているので予定号に掲載。

- 第5巻1号：特集「世論」について

- ・担当：遠藤先生
- ・著者：
  - +西田亮介（東京工業大学）「政治と世論」（仮テーマ）
  - +小川祐樹（立命館大学）「Twitterと世論」（仮テーマ）
  - +陳 雅賽（早稲田大学博士課程、学位取得）「中国の世論形成」（仮テーマ）

- 第5巻1号以降について

第5巻2号：特集「メディア」、第5巻3号：特集「ジェンダー」

- ゲストエディターについて

ゲストエディターを招く場合はその号のみ編集委員会に加わってもらうことにする。

- 今後の企画について（懇談事項）

古典的なトピックに加えて、新しいトピックを加えていくか？→運動、オリンピック、テロ、安心安全、リスク、観光などのトピックが提案された。他にもアイデアがあれば北村編集長に適宜、提案する。

- その他の予定原稿

- ・第4巻2号

+総会シンポジウム（2015年6月7日）記録の掲載

- ・第4巻3号

+遠藤先生：第5回横幹連合総合カンファレンス報告→2016年2月までに

+櫻井先生：学会大会シンポジウムに関してテープ起こしがまだ入手出来ていない。

+吉田先生：公開シンポジウム（2015年7月4日）の記録。西垣先生以外の若手著者2名に依頼。

+服部先生：若手カンファレンス（2015年9月11日）の記録。→2016年2月までに。

- ・次号以降での掲載候補

- +2016年6月の総会シンポジウムの記録
- +支部大会（例えば2015年12月13日開催東北支部大会など）の記録・発表概要など
- +情報政策研究会の記録（野田先生が準備?）
- +各研究会の活動報告

○編集作業の流れについて（資料参照）

- ・資料について服部先生がメーリングリストで共有サイトについての連絡をする。
- ・岡田先生より掲載までのプロセスを見て気付いたところ
  - +投稿から査読開始まで時間がかかる
  - +採録決定から掲載まで時間がかかる:発行に時間がかかっているから
- ・北村先生より森田先生からの伝言として紹介
  - +最終原稿を校正1回で終わらないということも時間がかかっている要因
  - +入稿原稿が原則として最終原稿であり、校正は一枚のみであることを編集マニュアルに明記する
- ・査読の人数について検討
  - +当面は3名体制を維持し、WGで継続して検討課題とする。

○その他

- ・学会誌の海外データベース収録を目指し、WGで検討する。

次回：

2016年6月（総会開催時：日程未定）